

むつみ

第55号 2009. 1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

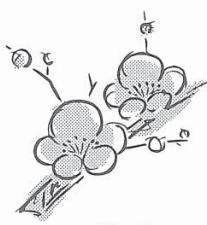
目 次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	1
新年のご挨拶	福島県土地改良事業団体連合会	2
会長 柳内 喜久子		
第三十二回総会及び業務研修会	福島県土地改良団体職員連絡協議会	3
会員の皆さんお世話になりました		
第三十一回全国土地改良大会	福島県土地改良団体職員連絡協議会	8
前会長 石神正雄	福島県土地改良団体職員連絡協議会	9
支部だより	福島県土地改良団体職員連絡協議会	10
永年勤続	福島県土地改良団体職員連絡協議会	12
私の「広野町土地改良区30年史」	福島県土地改良団体職員連絡協議会	19
永年勤続受賞に思うこと	福島県土地改良団体職員連絡協議会	19
勤務20年間で学んだこと	福島県土地改良団体職員連絡協議会	19
感謝の気持ち	福島県土地改良団体職員連絡協議会	20
「もう、20年?」	福島県土地改良団体職員連絡協議会	21
須賀川市土地改良区	福島県土地改良団体職員連絡協議会	20
橋本雄司	福島県土地改良団体職員連絡協議会	21
視察研修に参加して	磐梯西部土地改良区	23
先進地視察研修の回想	磐梯西部土地改良区	24
会津大川土地改良区	磐梯西部土地改良区	25
会津大川土地改良区	磐梯西部土地改良区	25
大竹伸明	磐梯西部土地改良区	25
加藤よね子	磐梯西部土地改良区	25
年男・年女	磐梯西部土地改良区	26
「勿論元気いっぱいがんばります」	磐梯西部土地改良区	26
磐城小川江筋土地改良区	磐梯西部土地改良区	26
小山田 美保子	磐梯西部土地改良区	26
初心を忘れずに	磐梯西部土地改良区	27
矢吹原土地改良区	磐梯西部土地改良区	27
西山 としみ	磐梯西部土地改良区	27
岩淵淳	磐梯西部土地改良区	27
須賀川市土地改良区	磐梯西部土地改良区	28
橋本雄司	磐梯西部土地改良区	28
佐藤晴夫	磐梯西部土地改良区	29
酒井京子	磐梯西部土地改良区	29
川井秀子	磐梯西部土地改良区	29
遠藤敏雄	磐梯西部土地改良区	29
感謝の気持ち	磐梯西部土地改良区	29
新会員のみなさんより	磐梯西部土地改良区	29
よろしくお願いします	磐梯西部土地改良区	29
土地改良区職員となつて	磐梯西部土地改良区	29
会津北部土地改良区	磐梯西部土地改良区	29
酒井明美	磐梯西部土地改良区	29
磯部和孝	磐梯西部土地改良区	29

表紙写真

福島県土地改良事業団体連合会五十周年記念式典
設立五十周年記念表彰

新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 柳内 喜久子

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方には、良き新しいお年の新春をお迎えになられたことを心からお喜び申し上げます。

昨年は会員の皆様方より温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もよろしくご指導・御協力をお願い致します。

さて、本協議会の平成二十一年度第三十二回総会が去る七月二十四日午後一時三十分より、耶麻郡北塩原村「裏磐梯猫魔ホテル」会場に於いて、永年勤続者三十二名の表彰を来賓ご臨席のもと開催できました事は、本協議会の喜び励みともなり、会員様方に於いて益々ご精励下さいます様ご祈念申し上げます。

引き続き行われた議事の諸議案並びに役員改選についても皆様の御協力により、満場一致でご承認いただきました。

役員改選に当たり申し遅れましたが、私はこの度総会に於きました会長に選任されましたが、重職に就きました事への不安や責任の重大さを

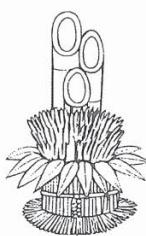
感じております。会員皆様方へご迷惑を掛ける場合もあるとは思いますが、皆様に支えられご指導を仰ぎながら全うし務めて参りたいと思いますので宜しくお願ひ申し上げます。

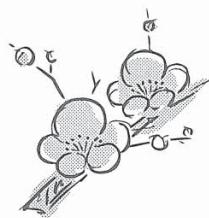
本協議会では毎年県外研修を実施しており、二十年度は去る九月十一日・十二日の両日、参加人数二十五名にて新潟県の西蒲原土地改良区・亀田郷土地改良区へ視察研修を実施致しました。両改良区とも組織や規模の大きさ、充実した業務システム、また永年の課題だった用排水改良事業を見事に完遂される等、何れも視察地に相応しいすばらしい土地改良区で、有意義な価値のある研修となりました。

今後も会員皆様の要望に沿った先進地研修を実施する計画ですが、毎年参加人数が少ない状況でありますので、当会員皆様の御協力の程宜しくお願い致します。

昨年は『食の安心・安全』と言う事で農業を取り巻く状況は、益々厳しいものですが、事故米等が問題となり日本の米・その他生産物の価値が評価されているところであります。私達土地改良区職員は、組合員を保護し協力して守る為銳意に努力しなければなりません。

最後に石神前会長様をはじめ、退任されました役員の方々の御苦労に対する心から感謝を申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導・御協力の程お願い申し上げ新年の挨拶と致します。





新年のごあいさつ



水土里ネット福島
(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 渡部敏則

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健闘で輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

また、水土里ネット福島の業務運営、農業農村整備事業の推進につきましては、特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨今の農業情勢は農産物の価格低迷や担い手の高齢化等の進行による耕作放棄地の増加、さらには農村の過疎化・混住化等の進行に伴い集落機能が低下し、食料の生産基盤である農地・農業用水等の適切な保全・管理が困難となつてきているなど、依然として厳しい状況が続いております。

一方、世界的な金融危機で景気が低迷に陥っている中、平成二十一年度の農業農村整備事業関係政府予算案につきましては、「耕作放棄地等再生利用緊急対策」等の関連非公共予算を併せた対前年度比九六・四%

の六、四三四億円となつております。食料供給力の強化と農業・農村の振興や活性化を図るため、社会共通資本である農地・農業水利施設の基盤整備とこれら基盤をフル活用するための関連施策を一体的に推進することとしております。

このような背景を踏まえ、本会といたしましても、これまでの半世紀の歴史の上に立って、引き続き、国、県、市町村、そして土地改良区との連携の下、福島県の農業農村の特徴的発展のために努力して参る所存でありますので、今後とも、会員の皆様並びに各関係機関団体の皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

また、新たな分野の事業であります水土里情報利活用促進事業におきましても、地図情報（Web GIS）によるデータベースの構築は順調に進められております。平成二十二年からの運用開始後は、担い手の育成と農地利用集積のさらなる促進や農業用水利施設の適正管理など、農業・農村の振興発展に大きく寄与するものと考えております。

本会といたしましては、これまで以上に職員の技術力の向上に努め、いつでも会員の皆様のお役に立てるよう体制を整えておりますので、引き続き、本会のもつ技術力や情報、そしてネットワークを積極的にご活用いただければ幸いに存じます。

終わりに、福島県土地改良団体職員連絡協議会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして新年のごあいさつといたします。

す。表彰された方々は別表のとおりで
が贈呈された。
表彰式後、会津農林事務所長宍戸
氏が選出され、挨拶後、議事に入つ
た。



福島県土地改良団体職員連絡協議会第三十二回総会は、平成二十年七月二十四日(木)午後一時三十分より北塙原村「裏磐梯猫魔ホテル」において開催された。

第三十二回総会



受賞者の皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

表彰式後、会津農林事務所長宍戸様、福島県土地改良事業団体連合会専務理事渡部様より来賓祝辞をいただいた。



議案第1号「平成19年度事業報告について」、議案第2号「平成19年度収支決算承認について」が一括議本代表監査員(安積疏水土地改良区)の監査結果報告の後、原案どおり承認された。



議案第3号「平成20年度補正予算(案)について」、議案第4号「平成21年度会費・協賛金の額及び徴収方法(案)について」、議案第5号「平成21年度事業計画(案)」、議案第6号「平成21年度収支予算(案)」については事務局の説明後、いずれも原案どおり承認された。

議案第7号「役員の改選について」は、事務局案により採決ののち、互選会後選任された。(別表のとおり)新役員の皆様には、本協議会の円滑な運営のためご活躍いただきますようよろしくお願ひします。

総会は柳内副会長(小川町土地改良区)の閉会宣言により終了した。

永年勤続表彰

三十年勤続

安積疏水土地改良区	母畠地区土地改良区	母畠地区土地改良区	表郷土地改良区
社川沿岸土地改良区	雄国山麓土地改良区	山都町土地改良区	山都町土地改良区
会津宮川土地改良区	会津宮川土地改良区	広野町土地改良区	広野町土地改良区
会津宮川土地改良区	新地町土地改良区	鹿島町土地改良区	鹿島町土地改良区
福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会
福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会
伊達西根堰土地改良区	伊達西根堰土地改良区	伊達西根堰土地改良区	伊達西根堰土地改良区
安達疏水土地改良区	須賀川市土地改良区	戸ノ口堰土地改良区	会津北部土地改良区
須賀川市土地改良区	社川沿岸土地改良区	布藤堰土地改良区	会津宮川土地改良区
社川沿岸土地改良区	戸ノ口堰土地改良区	会津宮川土地改良区	会津宮川土地改良区
戸ノ口堰土地改良区	会津宮川土地改良区	布藤堰土地改良区	矢吹土地改良区
会津宮川土地改良区	会津宮川土地改良区	会津宮川土地改良区	安積疏水土地改良区
布藤堰土地改良区	布藤堰土地改良区	会津宮川土地改良区	昭和村土地改良区
会津宮川土地改良区	会津宮川土地改良区	矢吹土地改良区	そうま土地改良区

土佐吉根渡工福新関川蓮小山橋佐遠佐渡加渡藤荒酒高山遠佐綠穂菊水柳鈴
屋藤田本辺藤田国野井沼松寺本木藤間辺藤辺沢 井橋内藤瀬川積地野原木
良晴昌和勝純浩豊俊秀盛武 雄_{つや}俊 多京 正貞京広幸敏義いしづ 繁 博光
作夫照俊典久一彦威子雄彦一司子明茂吉子隆美雄子子裕雄弘み江夫一哉男



総会終了後、業務研修会が行われた。福島県農村計画課紺野主査より「土地改良賦課滞納について」、水土里ネット福島曳地課長補佐より「水利権更新の実務について」、水土里ネット福島渡辺課長より「農業用水水源地域保全対策事業について」の講演を行った。二日目の現地研修は、猪苗代町の堆肥製造施設の見学を行った。

業務研修会のアンケート結果は別紙のとおりです。

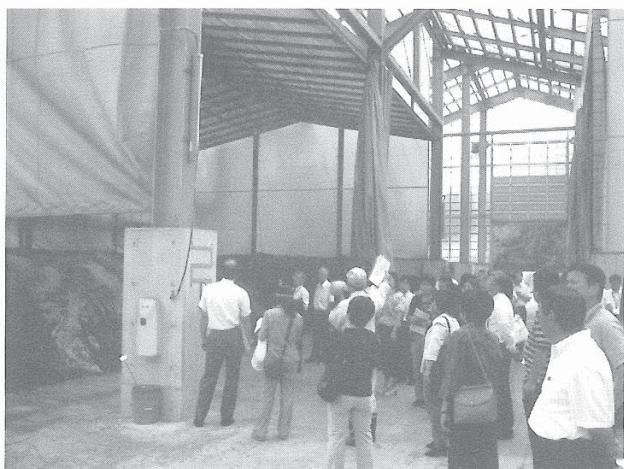
職員業務 研修会



水土里ネット福島 曳地課長補佐



県農村計画課 紺野主査



猪苗代町堆肥製造施設



水土里ネット福島 渡辺課長

業務研修会アンケート結果(受講者 72人)

回収率 15人 21%

○この研修会の開催時期について

- | | |
|------------|----------------|
| 1. ちょうど良い | <u>11人</u> 73% |
| 2. 別の時期がよい | <u>2人</u> 13% |

(7月上旬、6月中旬か8月下旬)

○研修内容はいかがでしたか

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 大変参考になった | <u>5人</u> 33% |
| 2. ふつうである | <u>10人</u> 67% |
| 3. あまり参考にならなかった | <u>0人</u> |

(理由はどんな点ですか)

○今後、どのような内容の研修を受けてみたいと思いますか。具体的にお書き下さい。

- ・水利権のように、本来改良区で必要な事がらについての研修
- ・農業施設の維持管理（修繕・改修）についての取り組み方について
- ・集落営農関係について
- ・滞納処分の認可後の何点かの事例（差し押さえの事例）
何を差し押さえたら一番いいのか？回収に至るまでの問題点等 認可後の研修
- ・今迄も問題になっている、未収賦課金の対策についての研修
- ・旅費（日当等）研修等負担金の支払いについて

○その他、感想要望等ありましたらご記入下さい。

- ・宿泊の部屋割について、喫煙者と非喫煙者で分けてほしい。
- ・この協議会に加入していない土地改良区や職員の方への働きかけをお願いしたい。
- ・賦課滞納の整理方法等のアドバイスを期待したが、残念。
- ・職連携の事業ですが、会津方部の研修会を他の方部の研修会同様に研修会を開催し、充実した研修会を開催したらどうかと思います。
- ・各土地改良区での事業の内容等の一覧をみてみたい。どのようなことに取り組んでいるか。
- ・会津方部の役職員の研修を是非お願いしたい。
役員が4年毎に変わるのでお願いします。

新役員紹介

(平成20年度～平成21年度)

役職	氏名	所属	方部
会長	柳内 喜久子	小川町土地改良区	いわき
副会長	遠藤 正一	安積疏水土地改良区	県中
"	永峯 真	会津宮川土地改良区	会津
"	小林 剛	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
幹事	石川 博利	伊達西根堰土地改良区	県北
"	渡辺 浩彰	大玉土地改良区	県北
"	菊地 繁夫	母畠地区土地改良区	県中
"	山寺 一	社川沿岸土地改良区	県南
"	齋藤 克憲	棚倉町土地改良区	県南
"	小松 武彦	戸ノ口堰土地改良区	会津
"	高笠 喜市	会津北部土地改良区	会津
"	佐藤 亨	猪苗代町土地改良区	会津
"	後藤 学	高郷土地改良区	会津
"	佐久間 恵子	そうま土地改良区	相双
"	矢内 道昭	楓葉町土地改良区	相双
"	後藤 庸貴	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
"	佐藤 善文	福島県土地改良事業団体連合会	土地連
代表監査員	橋本 一也	安積疏水土地改良区	中通り
監査員	小島 貞彦	柳津町土地改良区	会津
"	菅波 孝光	愛谷堰土地改良区	浜通り

☆会員の皆さんお世話になりました☆



福島県土地改良団体職員連絡協議会

前会長 石神正雄

早いものですね。棚木会長の後、平成18年度より会長職を仰せつかり、あつという間の2年間ありました。その間、会員の皆様をはじめ役員の皆様には大変お世話になりました事、心から感謝申し上げる次第であります。

さて、私は会長職就任以来、何が出来たかを思い起こせば、?会長の名ばかりで特になんにも出来なかった気がします。ただ人前で話をするということは、ちょっとした度胸も必要ですし慣れることも大事なことです。緊張のあまり言葉を忘れてしまったり、とんでもないことを口走ることもあります。連絡協議会にはそうした話せる機会を与えて頂きましたことを感謝致しております。

会員の皆様方にも是非、積極的に役員をご経験頂き絶えず活性化のある連絡協議会であって欲しいと願っております。

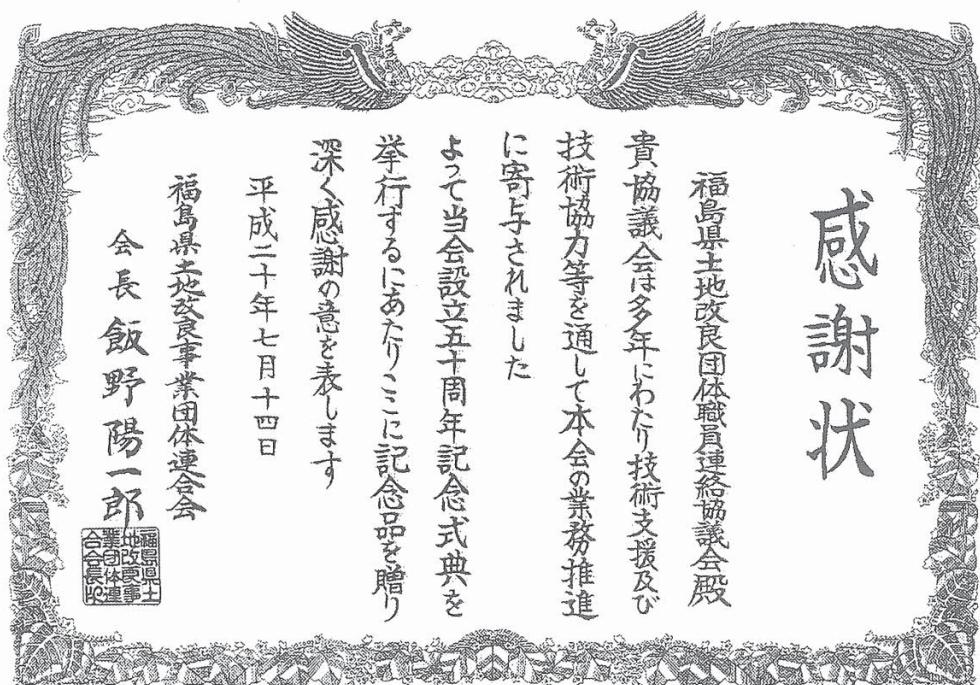
私は、連絡協議会、会長として一生思い出にのこる経験をさせて頂きました。平成20年7月14日、福島市ウェディングエルティで開催された、福島県土地改良事業団体連合会の設立50周年の記念すべき式典に団体を代表し参加させて頂きました。式では佐藤福島県知事をはじめ、東北農政局長、福島県選出の国会議員の皆様、そして農に関係する団体の代表の皆様をご来賓に盛大に執り行われました。わが土地改良団体職員連絡協議会にも団体の部において飯野会長より感謝状の贈呈があり、感激を胸に謹んでお受け致しました。

特に、功労者の県土連初代事務長の佐久間和三郎翁の感謝状贈呈式では、付添いの方はいらしたもの、満105歳とは思えないしっかりとした足取りで、壇上に進まれました。その毅然としたお姿に、参列された一同が割れんばかりの拍手と感動で今でも目に焼きついて忘れることが出来ません。翁のお姿は、今まで歩んでこられた事務長としての自信と風格に充ち溢れ、戦前、戦後の混乱しながらの苦難の時代を乗り越え、事業の推進に明け暮れた様々な思いを、回想されているやに感じられました。時代の違いはあっても、我々、土地改良に携わる一人として、どのように人生を歩めたら、さぞ名誉なことと思いました。

今年も、師走に入り新年を迎えようとしていますが、この時期、夜の歓楽街は、大賑わいであるはずなのに人の姿はパラパラ、バブル崩壊の時よりもまだ酷い世界大不況、報道も良い話題はほとんど聞かれないと時代になってしまいました。そんな中、政府は平成21年度財務省原案が発表され、昨年度当初予算に比較し、6.6%増、一方農林関係予算は9年連続の6.7%の減額が内示されました。しかし、減額は痛いですが、食糧自給率の50%に引き上がる目標を掲げ、国内食料供給力の強化を目指すとしており、来年度こそは農林関係事業に期待ができるかなと思いを馳せております。

寄稿依頼の期限は、とうに過ぎました。また斎藤さんに迷惑がかかりますね。ごめんなさい。それでは、改めて会員の皆様、役員の皆様に心からの感謝と御礼を申し上げ、柳内会長を中心として、福島県土地改良団体職員連絡協議会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ筆を下させていただきます。

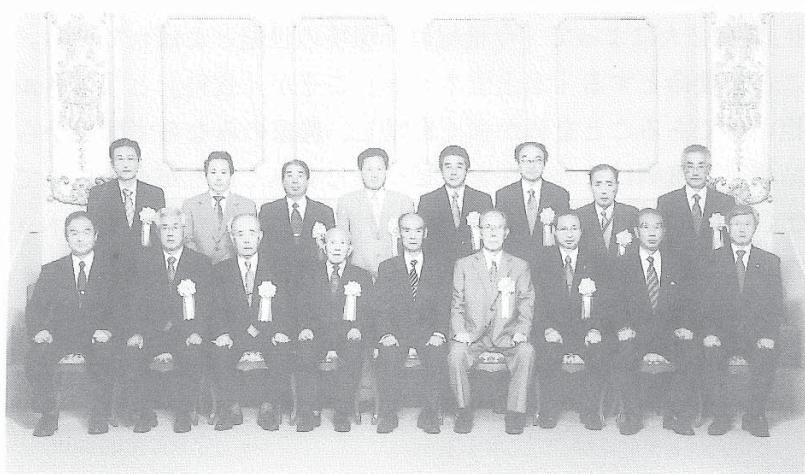
福島県土地改良事業団体連合会 50周年記念式典で 本協議会が表彰されました



福島県土地改良事業団体連合会の設立50周年記念式典が平成20年7月14日(月)午後1時30分より福島市のウエディングエルティで開かれました。

席上、各種研修会を通して関係職員の技術力の向上に寄与するとともに、事業地区の情報の提供等を通して土地連の業務の推進に貢献したとして、感謝状をいただきました。

受賞を契機に、今後におきましても農業農村の振興発展に寄与すべく、協議会の活動を進めていきたいと思います。



第31回

全国土地改良大会 ~秋田大会~

「あすを拓く大地 きらめく疏水 たくましき郷」

平成20年10月14日(火)午後12時50分より、秋田県立武道館において、第31回全国土地改良大会が全国水土里ネット・水土里ネット秋田主催で開催され、全国から約3,800名の土地改良関係者が参加した。

本大会では、食料自給率の低下や食の安全・安心に関する課題が山積する中、農業・農村が担っている役割を広く国民にアピールするとともに、明日の活力ある農業・農村づくりのために、今できること・しなければならないことについて確認しあった。



式典では、はじめに水土里ネット秋田の高畠進会長が開催県を代表し「全国土地改良事業団体連合会50周年」という記念すべき年の開催。参加者は本県の風土と食文化に触れてもらいたい」と挨拶した。

続いて、全国水土里ネットの野中広務会長が主催者を代表し、「水と土と里を国民共有の財産として後世にのこすため、行政と連携して農業水利施設を保全していくことが必要」などと述べた。

このあと、来賓祝辞、土地改良事業功労者表彰式、21世紀土地改良区創造運動大賞表彰式が行われ、本県からは阿武隈川上流土地改良区 郷 泰隆理事長が「全土連会長表彰」を受賞、また、矢吹土地改良区が21創造運動さなえ賞を受賞し、表彰式は21創造運動全国セミナー（12月10、11日国立オリンピック記念青少年総合センター）で行う予定。

また、農林水産省農村振興局齋藤整備課長より土地改良行政について基調報告があり、大会宣言は地元秋田大学（生物資源科学部）の学生、男女2人によって「今世紀は「環境の世紀」とよばれている。水と土と里を健全に保全管理していくことを使命とする「水土里ネット」こそが「食料」と「エネルギー」と「水」という資源そのものの担い手であることを皆が強く自覚し、農家のみならず国民からも信頼と信託を得るように今一度力を結集し、真剣にその存在をアピールしていくことが求められている。あすを拓く大地、きらめく疏水、たくましき郷を国民共有の貴重な財産として、私たち水土里ネットが一致団結し、守り・育み・伝承していくことを宣言する。」と力強く大会宣言が読み上げられた。

引き続き、次期開催県である水土里ネット島根へ大会旗が引き継がれた。

その後、香川用水土地改良区理事長より①平成21年度の農業・農村整備事業の予算を確保すること、②基幹的な農業水利施設の整備は今後も国営事業で行うこと、を求める内容の緊急動議があり、満場一致で可決した。

最後に、水土里ネット秋田副会長の挨拶により本大会のすべてを終了した。

大　会　宣　言

我が国はアジア・モンスーン気候に属する豊かな四季と世界に誇る食文化を有する美しく豊かな国です。そして秋田は豊かで多様な食と景観と文化を有する豊穣な大地です。

ところが、1960年には80%近くあった我が国の食料自給率は現在40%程度まで低下し、その結果日本人の食卓は不安を抱えながらも外国の食材抜きには成り立たず、その食生活を維持するためには、国内農地の2.7倍分の農地と国内農業用水とほぼ同じ水量を海外に依存している状況となっています。一方で世界の食料援助量の3倍もの食品を廃棄し、水田の耕作放棄地も年々増加している現状にあります。

今、世界は、65億人以上の人口を養うため、「食料」と「エネルギー」と「水」を奪い合う時代に突入したとも言われており、もはや地球は人類を養えるぎりぎりの限界にある中、日本をはじめ先進国がその経済力にものを言わせて資源を買い漁ることがいつまでも許される状況ではありません。

今こそ、国民のニーズに合わせた足腰のしっかりした日本農業を再構築していくことが、国民から強く望まれています。

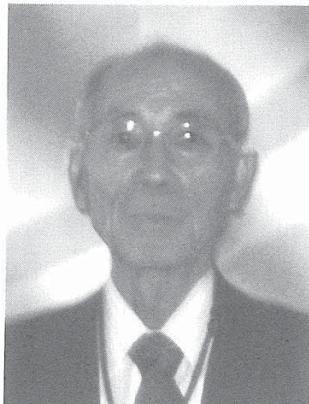
水土里ネットが担ってきた土地改良関係の社会資本は、千数百年に亘り脈々と受け継がれ守り継がれ構築されてきた貴重な社会ストックであり、豊穣な国土を形成する大地とそれを潤す血潮そのものとなっています。日本農業を再生し、自給率を向上させ農業を持続的に発展させていくためには、これらのストックを今後も有効に活用することが不可欠であり、これらを管理し保全している「水土里ネット」と「土地改良」の役割はますます重要となっています。

今世紀は「環境の世紀」と呼ばれていますが、地球規模で持続的な環境を維持していくためには、限りある資源である「食料」「エネルギー」「水」を適正に配分し、最大限効率的に利活用していくことが必要です。

「水」と「土」と「里」を健全に保全管理していくことを使命とする「水土里ネット」こそが、「食料」と「エネルギー」と「水」という資源そのものの担い手であることを皆が強く自覚し、農家のみならず国民からも信頼と信託を得るように今一度力を結集し、真剣にその存在をアピールしていくことが求められています。

「あすを拓く大地」「きらめく疏水」「たくましき郷」を国民共有の責重な財産として、私達水土里ネットが一致団結し、守り・育くみ・伝承していくことを、ここ秋田において高らかに宣言いたします。

平成20年10月14日
第31回全国土地改良大会秋田大会



阿武隈川上流土地改良区理事長
郷 泰 隆 氏

☆全国土地改良事業団体連合会会長表彰
土地改良事業功績者

支 部 だ よ b

県
南
支
部
塩
田
有
子

会員の皆様には、いつもお世話になつております。

さて、平成二十年度の県南支部視察研修は昨年度と同様に、負担金の低減・参加人数・日程等を考慮し事務局長連絡協議会との合同開催となりました。今年は県南農林事務所の異動にて船木秀晴所長を始め農村整備部豊田裕部長・星恒昭副部長が新たに着任されました。

四月十八日に事務局長連絡協議会の総会で緊張の面持ちで初顔合わせを行いましたが、皆さん、過去に県南農林勤務を経験されている方々で、ひとときの緊張は溶け、和やかな会合となりました。

今回の研修先については、県南農林事務所農村整備部豊田部長より【JA全農にいがた】を紹介して頂き、十月一日に訪れ『イネ原料バイオ燃料地域利用モデル実証事業』について、研修を致しました。

① コメの消費減退などによりコメの生産目標数量が減少していくなかで、地域の水田農業振興に寄与する。

② 畑作物への転換が困難な地域の水田の有効活用をはかる。

③ 水田を水田として活用することにより地域の農地・水・環境を将来に渡り良好な状態で保全する。

といった事だそうです。エタノールの製造と聞くと、アメリカのトウモロコシ、ブラジルのサトウキビといった海外の生産物が耳慣れているかと思いますが、日本の主力農産物であるコメを、休耕田を活用して付けし、地域の水田農業振興に役立てようと地域からの協力を得ながら

『イネ原料バイオ燃料地域利用モデル実証事業』とは、平成十九年度より農林水産省から採択を受け、新潟県を対象地域とした原料イネの栽培からエタノールの製造・混合ガソリンの販売までを一貫して実証を行っている事業です。

この事業の主な目的としては、食料用作物でのエタノールの製造は、食品の価格高騰への影響が懸念されますが、この実証事業では、休耕田の活用と、飼料用品種から製造するため、食料との競合の心配はないそうです。また、このような取り組みが、国内では現在六ヶ所で行われています。

補助の助成機関ですが、農林水産省で四ヶ所、環境省で一ヶ所、経済産業省で一ヶ所あり、北は北海道から南は沖縄県と採択を受け行っているそうです。

追記

研修先の相談を受けたとき咄嗟に頭に浮かんだのが「JA全農にいがた」が実施しているイネ原料バイオエタノールの実証事業でした。イネの過剰作付け解消に向け一丸となつて取り組んでいるさなかのことと、ずっと頭から離れずにいたからです。自由に米が作れ、しかも地球温暖化防止にも寄与するとなれば二重、三重の効果です。

しかし、全農担当者の説明を聞いて今後の展開には高いハードルがあると感じました。

記憶に新しい米国大統領選でオバマ上院議員が繰り返し訴えた『CHANGE』（変革）は、広く支持されている言葉ですが、「元の形をとどめないほど全面的に変える」という意味だそうです。

ら、これから水田農業が抱える課題である、将来に渡る農業生産基盤の安定確保を目指した取り組みを行っている事を、今回の研修で初めて知りました。

参加した役職員の方々も積極的に質問をして多感に学び、とても興味を持たれて研修されている様子でした。

受け、懸命に取り組む姿勢に感銘を受け、さらなる飛躍を願わずにいられない研修となりました。

すべての人々に

YES WE CAN

A N G E』（変革）は、広く支持されている言葉ですが、「元の形をとどめないほど全面的に変える」という意味だそうです。

一つ一つを摸索して取り組む事業改革推進の方々と接してみて、課題は、山のようにあるとは思われますが、近況の農業を取り巻く厳しいなか、一步踏み出し、事業の採択を受けて、懸命に取り組む姿勢に感銘を受け、さらなる飛躍を願わずにいられない研修となりました。

第一は食べ物から作ることに国民

のコンセンサスが得られるかということです。トウモロコシのバイオ燃料による国際的な食糧危機の発生は非食料からの製造へと流れが向いています。

第二は立法化の問題です。アメリカが急激にトウモロコシをバイオ燃料にした契機にブッシュ大統領がガソリンにバイオ燃料を混入する法律に署名したことが大きいということでした。日本では福田前総理がイタリアの食料サミットで食料以外での製造をアピールしています。

現地では三〇〇haの水田で飼料用多収穫品種のイネが栽培されていましたが、耕作者は「この事業に参加して仕事が楽しくなった。休耕田を使わないことはない」と期待を寄せていました。狭義には遊休農地の解消、環境保全と良いことづくめであり検討の余地は十分あると感じました。

県南農林事務所農村整備部
部長 豊田 裕



会津支部

永嶋千代子

【地域のリーダーとなる時】

土地改良区の役割について思う

県土地連会津支部のこの職にお世話になつて、早や二十年となりました。

私が、初めて支部職員になつた時は、土地改良事業の最盛期であり、管内三十二土地改良区で、基盤整備事業や用排水路事業に取り組まれ、農家の皆さんのが生産性向上と経済安定を効果目標として、組合員の方々と一緒に整備が進められました。

そんな中、支部業務研修の課題は、旧農地事務所の指導のもと「工事に係る歩掛りについて」・「工事の安全施工について」・「補助金交付申請と地元負担借入金について」等、事業に係る実務的な研修の内容であります。また、県外研修にあっても、先進的に土地改良事業に取り組んでおられる改良区を視察し、事業の苦労話を伺つたりの研修であつたようを感じられました。

土地改良区の皆さんの努力で、会津管内の基盤整備も進み、整然とした『ほ場』を見た時、土地改良

事業に係わつてこられた多くの皆さんのご労苦を感じずにはいられません。先日、会津・南会津支部合同役職員業務研修会を二〇二名の大勢の参加者のもと開催いたしました。研修内容について、事前に会津農林事務所の方々と打ち合わせを致しましたところ、「会津の農業政策の展望について」・「未収賦課金の徴収方法について」・「環境保全に配慮した事業の進め方」・「安心・安全な食農について」等、数十年前の研修内容とは一変した現代農政を反映すべくものでした。基盤の整備がなされ、『一集落一農場』を目指し、耕地の集積による共同営農によって、低コストや収益のあがる作物の導入、安心・安全な地産地消の積極的な取り組みや、付加価値を付けた農産物加工販路によつて、農家経済の向上となり農家の皆さんが営農展開を望むとするならば、土地改良区もその役割の一助となるべく機能の変革が求められるのではないかでしょう。

土地改良区の業務の中に、仮称営農指導課等を設置し、維持管理費と合わせて、指導促進費という賦課もあり得るのではとふとそんな事を思つた時、土地改良区役職員の

専門的知識を持つて、組合員の指導相談に応ずることも、今後の土地改良区としての業務となるのではと思ひます。

去る九月に南会津支部と合同で山形県新庄土地改良区に研修に伺いました。

農地・水・環境保全向上対策事業に土地改良区が先導的に係り、関係団体の業務一切を行つており、他の地区での環境保全活動事例を周知したりと、全地区での問題点の提起や指導を行つておられるとのことで、参加された役職員の皆さんに大変参考になつたと言つて戴きました。

当管内市町村でも多くの集落が、環境保全に参加されておりますが、水の権利を持ち、水の管理を行う土地改良区こそが、この事業の主体となつて、地域の方々と共同で、水の大切さや地域で守る環境保全に努められるべきであると思ひます。

いろいろと考え方を述べましたが、どの様に変わるのか「先の見えない」これから農業情勢を思うとき、土地改良区こそが地域のリーダーとしての役割を担う時がすぐそこまでいるように思います。まさに【土地改良区の変貌】のとき・・・

土地改良区の業務の中に、仮称営農指導課等を設置し、維持管理費と合わせて、指導促進費という賦課もあり得るのではとふとそんな事を思つた時、土地改良区役職員の

相 双 支 部

蜂須賀
ひろみ

相双支部では、平成二十年十一月二十日～二十一日に平成二十年度農業農村整備事業先進地視察研修を、管内会員の役職員、県職員等二十二名参加にて実施致しました。

今年度は、埼玉県の農業農村整備事業について、

1、埼玉県南埼玉郡菖蒲町「見沼代用水土地改良区」

(1) 土地改良施設の維持管理状況
(2) 21世紀土地改良区創造運動について

(3) 現地視察

2、埼玉県日高市「サイボクぶた博物館」(株埼玉種畜牧場サイボクハム)

(1) サイボクの歴史から学ぶ生産・販売・ブランド化の戦略について

(2) 現地視察

「見沼代用水土地改良区」につきましては、見沼代用水土地改良区の会議室において、企画調整室 室長 小川一彦様より説明をしていただき、引き続き、独立行政法人水資源機構利根導水総合事務所見沼管理所

会議室において、企画調整室 室長 ついて

(1) 「農業農村をめぐる諸情勢について」

相双農林事務所農村整備部

部長 後藤 孝一氏

に移動し、所長古藤真一様より説明をしていただき、質疑応答、現地視察等が行われました。

「サイボクぶた博物館」につきま

しては、(株)埼玉種畜牧場サイボクハムの会議室において、総務部諒訪勝

美様より説明をしていただき、ビデオ研修が行われました。どの視察先でも担当の方々の熱意あふれる懇切丁寧な説明があり、参加者の方々も熱心に質問するなど、とても充実した研修となりました。また、宿泊先では、情報交換会において、より一層の親睦を深められたことと思います。ご参加していただきました皆様、いろいろとお世話になりました。ぜひ、また多数の皆様のご参加をよろしくお願い致します。

平成二十年十一月十一日には、平成二十年度農業農村整備事業担当者研修会を、相双方部土地改良団体職員連絡協議会と合同で、福島県相双保健所会議室にて開催、管内会員の役職員等四十六名が参加致しました。研修内容は、

(1) 「農業用水水源地域保全事業

(2) 「法第132条検査における主な指導事項について」

相双農林事務所企画部 主任主査 矢吹 聰氏

(3) 「農業用水水源地域保全事業と施設管理について」

水土里ネット福島環境整備部 次長 坂内 隆芳氏

(4) 「非補助農業基盤整備資金について」

株日本政策金融公庫仙台支店 農林水産事業副調査役 居川 美貴氏

(5) 「土地改良の賦課及び滞納について」

福島県農林水産部農村計画課 主査 紺野 保幸氏

また、当支部では、相双地方土地改良区事務局長連絡協議会の先進地視察研修にも協賛しております。視察研修について相双地方土地改良区事務局長連絡協議会長、そうま土地改良区事務局長岩本一夫様よりご紹介いただきます。

10月13日(月) 視察研修
大潟村干拓博物館

八郎潟は面積22km²と広い湖ですが、戦後の食料不足を解消するため農地を増やす計画が国により進め

協議会としては、例年独自に視察研修を実施しておりますが、本年度は東北において開催される第31回全国土地改良大会秋田大会に参加することに決定し、さる平成20年10月13日(月)から15日(水)の3日間、支部会員等13名が福島県土地改良事業団体連合会浜通り地区のバスに便乗し視察研修を実施したのであります。

られ、昭和27年干拓を計画し、国営干拓事業と八郎潟新農村建設事業団事業が実施されたのであります。

国営干拓事業は昭和32年から43年に及ぶ前世紀の一代事業でもあります。この事業の内容は、干拓するために湖の内側に堤防を築き、排水路を掘り、そして水を汲み出し、土地を乾燥させて内側の土地を利用できるようにする工法であります。

一方、農村建設事業は、昭和40年から11年かけて、道路整備、ほ場整備、集落公共施設、農業施設の整備、入植者の指導といった社会基盤の整備を行つたのであります。地盤は海面より4mも低く、土壤はヘドロで入植当時は農作業に大変苦労した様子が写真・農業用機械等の展示物を見ると伺い知ることができます。

10月14日(火) 秋田大会

「明日を拓く大地」「さらめく疏水」

「たくましき郷」をテーマに秋田県立武道館において盛大に開催されました。

式典には全国の土地改良関係者ら（主催者発表）3,800名の参加の下、大会は、「食料自給率の向上」や「食の安全・安心」が叫ばれています。昨今、時代の要請に応じた「農業



10月15日(水) 視察研修

福島県は、男鹿市にある防潮水門

と南部排水機場を視察コース選択し、両施設とも八郎潟干拓事業により整備された施設のため、近年は施設の老朽化や昭和58年の日本海中部地震により機能の低下が進んだこと

から、両施設とも国営総合農地防災事業により、南部排水機場は男鹿東部一期地区として平成8年から平成14年、防潮水門は男鹿東部二期地区として平成12年から平成19年にかけて各々改修工事を行つてある施設であります。

昼食後、3地方に分かれて帰省いたしました。

相双管内土地改良区紹介

水土里ネットそうま

(そうま土地改良区)

各表彰後、農林水産省農村振興局の齋藤晴美整備部長が土地改良行政について基調報告し、最後に緊急動議が提出、来年度の農業関連予算の満額確保と転作における所得保障の

施策について、拍手により満場一致で承認されました。

又、会場の内外において秋田県のPRのため物産展示・販売の行事が行われ、式典終了後、劇団わらび座による「ようこそ秋田へ」の公演が行われました。

施設について、拍手により満場一致で承認されました。
通り特有な気象条件に恵まれ水稻を主とした農村地帯である。

本区は、相馬市と新地町の1市1町に跨り、従前主水源は、2級河川宇多川を始め5河川と大小さまざまな溜池に依存しておりました。

阿武隈山脈が南北に走り、山懐が非常に浅く河川勾配が急流のため、その流況が不安定のため雨水は貯蓄されること無く旱天が数日続ければ農業用水事情が深刻化する常習旱魃地帯がありました。

このような状況から、農業用水不足を解消するため、昭和55年度から県営かんがい排水事業により相馬地区として松ヶ房ダムが着工、平成8年度にダムが完成、翌年度に試験灌水後、平成10年度から供用開始したところであります。この間に投じた総費用は23,691,268千円となりました。

一方、昭和56年から相馬第二地区として幹線用水路が着工、平成15年度に右岸幹線用水路の頭首工である沼堰頭首工が完成し、平成16年度から供用開始したところであります。

又、左岸幹線用水路の頭首工である、相馬頭首工も平成19年度に完成、

3,017ha・組合員数3,198名

そうま土地改良区は、受益面積

管路の整備が平成21年度に完成することにより、平成22年度から供用開始となる予定。この間に投じる総費用は14,990,000千円となる予定であります。

本区は、ほ場整備事業が平成17年度に完了したことから、松ヶ房ダム・幹線用水路の延長38,916m等の施設を含め適切に管理していくことが求められております。

土地改良区のイベント

土地改良区は、溜池や農業用水路など農業水利施設の維持管理が主な役割の一つですが、農業情勢の変化により組合員の活力も一段と低下し、この役割を果たしていくことが困難な状況になっています。

そこで、これから土地改良区は、どのようにすればこの役割を果たしていいのかについて、現状へのご理解とご意見をいただきながら今後の活動にご協力いただけるよう「21世紀土地改良区創造運動」を開催しているところです。

今回は、地域の皆様にそつま土地改良区管内の主な農業水利施設を間近にご覧頂き、その役割をご理解いたくことを目的として、福島県・市町を始め関係機関と連携して下記

のイベントを開催しました。

「松ヶ房ダム施設学習会と開催記念植樹」

主催…「水土里ネットそつま」
共催…福島県・相馬市・新地町・福島県土地改良事業団体連合会
実施日…平成20年7月12日(土)

集合…そつま土地改良区（大型バス1台40名）
天気…晴れ

・施設見学「展示室・操作室・取水棟・監査廊」

・昼食ふるまい「おにぎり・豚汁」
・産業廃棄物処分場建設予定地現地視察

・記念植樹「エノキ40本」

当日は、40名の参加の下、天気も良く島副理事長あいさつの後県相双農林事業所農村整備部土崎農地計画課長のあいさつをいただき、ダムの視察に入り約1時間30分の行程でした。足取りも軽く戻ってまいりました。早速昼食に入って全て完食していただき、お昼休みとなりました。

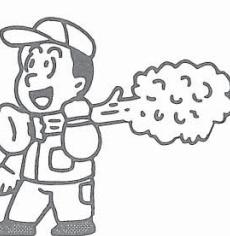
バスで、産業廃棄物処分場建設予定地（建設予定地丸森町）を視察し、この場所では雨水・排水等全てダムに流入することを確認し、認識（反対）を新たにしたところです。

つづいて、「エノキ」記念植樹、
① 平成20年1月25日(金)
県北管内土地改良区役員・職員・

絶滅危惧種「国蝶・オオムラサキ」丸森町川平地区に生息しているため、オオムラサキの幼虫がエノキの葉を好んで食することから植えることにしましたと、説明してから植樹し、終了後、バスに乗り事務所へ戻り散会しました。

関係機関の皆様には、大変お世話になりました。

になりました。



市町村担当職員研修会
場所…ホテル福島グリーンパレス
講演…N N 事業の動向について
県北農林事務所農村整備部
部長 伊藤 恭一氏
研修…

(1) 土地改良施設維持管理計画書の作成及び土地改良法の法手続きについて
県北農林事務所農村整備部 農地計画グループ
主査 安斎 通氏

会員の皆様には日頃より大変お世話になりますがどうぞございます。平成21年もどうぞよろしくお願い申し上げます。また、皆様にとって楽しい良い年となりますようお祈り申し上げます。

さて、平成20年に県北支部管内で開催した各種研修会等を紹介いたします。
(2) コンクリート水路の長寿命化にむけた診断と補修について
県北農林事務所農村整備部 農地計画グループ
主査 佐藤 秀雄氏



県北管内土地改良区役員・職員・市町村担当職員研修会 武藤支部長挨拶

県 中 支 部
八 卷 敏 之

(6) 未収賦課金対策について

県中農林事務所農業振興部

農政G

平成20年の事業

(1) 県中管内土地改良区役・職員、市町村担当職員研修会

平成20年1月16日(水)

安積疏水土地改良区会議室

研修内容

(1) 統計データーから見た農業の動向について

県中農林事務所地域農林企画室

室長 谷井 彰氏

(2) 最近の農業農村整備事業について

県中農林事務所農村整備部

部長 渡部 悅郎氏

(3) 農業水利施設ストックマネジメントについて

県中農林事務所農村整備部

農地計画G

課長 亀田 秀雄氏

(4) 「農地・水・環境保全向上対策」の実施状況について

県中農林事務所農村整備部

農地環境整備G

課長 星 恒昭氏

(5) 土地改良区役員(理事・監事)の責務と役割について

県中農林事務所農業振興部

農政G

主任主査 高野 康典氏

り上げがあり、取り扱い品目として、野菜等が約6割を占める。

市場に出す生産者を1品目に20名と限定し、徹底した品質管理と

安売りさせないための生産技術の指導と生産者も努力している。

現在40名となつておらず、年齢層は若くなっている。半数近くに後継者もおり、後継者がいない生産者のため

「みづほ」で新規参入として、3年くらい研修を受け入れて後継者として育てて、後継者のいない生産者の土地を借りて生産している。

また、生産者として平均700万円～800万円の販売額があり、中には1、200万円を販売する生産者もいる。

原価計算に基づく品質向上と価格の設定により、生産者に利益ができるよう最高の品質を生産出来るよう

に市場と生産者が共に取り組んでいた。

(2) 茨城県つくば市「みづほの村市場」

当初有限会社として平成2年10月に設立し、その後株式会社として運営している。

運営の仕組みとして、「みづほ」

は、生産者との間に委託販売契約を取り交わし、販売所「みづほの村市場」で販売している。

販売額としては、当初1億円でした

が、平成20年7月現在5.9億円の売

手農家、1つを上根麦作組合を中心とした3ヶ年間実施をした。

展開としては、転作助成金のほか、霞ヶ浦用水の水利費賦課金を全額負担することにより、各ブロックの

集団転作は100%達成できた。

平成16年度からは、「米政策改革大綱」に切り替わり、とも補償制度、経営確立助成制度等が廃止され、産地づくり対策交付金に替わった事に

より、転作制度に対し農家の不信感を招く結果となり、国の制度の変更についていかなくなり、一回りの3年で転作は終了した。

農業を取巻く情勢は農業従事者の高齢化・後継者不足、また、農産物の国内外の取引の自由化等によりますます厳しくなるので、土地改良区は維持管理だけでなく、農家の経営や営農を支援する組織でなければならぬとしました。

管内土地改良区も、4月に常葉町土地改良区、9月に郡山市中部土地改良区が解散いたしました。

本年も、皆様にとつて良い年でありますように心よりお祈り申し上げ、

県中支部の報告と致します。

私の「広野町土地改良区30年史」

廣野町土地改良区
酒井京子

勤続三十年の表彰を受けました。気がついたら「もう三十年も経つていた」という感じで何となくしみじみしてしまいました。

広野町土地改良区は昭和四十六年から五十一年までの五年間は休眠状態でしたが、私が勤務するようになりました。

勤続三十年の表彰を受けました。気がついたら「もう三十年も経つていた」という感じで何となくしみじみしてしまいました。

広野町土地改良区は昭和四十六年から五十一年までの五年間は休眠状態でしたが、私が勤務するようになります。

勤続三十年の表彰を受けました。気がついたら「もう三十年も経つていた」という感じで何となくしみじみしてしまいました。

私の「広野町土地改良区30年史」

廣野町土地改良区
酒井京子

まずながらやつとのおもいでこの事業を完了させることができたのですが、こうしたことも三十年の時が過ぎた今となつてはどつても懐かしい思い出です。

この最初の事業が終わってからは「広野町役場」の応援を受け、事業局長、職員である私とアルバイト職員の三人体制でたて続けに三地区の事業を行なつたのですが、これらは十年間で七地区の整備事業を行なつたのです。

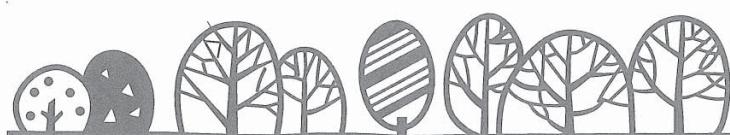
これからは年を経るごとに事業が減つていき、それとともに職員も少なくなつて、昭和六十三年からは私一人の事務所となつてしましました。

平成九年から十四年にかけては県営圃場整備事業を手がけたのですが、この事業を行つたことで町内の約八〇パーセントの面積の整備が完了したことになり、現在はこれらの土地の維持管理が主な仕事になつてきますが、そうした中で「賦課金の徴収率一〇〇パーセント」を維持できていることがちょっと自慢です。

今後の事業についてはいろいろと

永年勤続受賞に思うこと

模索中なのですが「広野町土地改良区」のように小さなところでも「元気ができるような事業」があつて欲しいと思っています。



永年勤続受賞に 思うこと

昭和村土地改良区
佐藤晴夫

採用当時、「土地改良区」や「土地改良事業」などなど。聞き慣れないうえ「どんな仕事?」と知人から尋ねられても、具体的には何も答えられなかつたことを思い出します。

幸いにして、土地改良事業が実施中であつたことが、土地改良区について少しだけ私が話せるきっかけになつた気がします。

面工事(ほ場整備)に伴い、私が土地改良区職員として換地業務に携わりながら、地区の方々と苦労を共にし事業を進めて来れたことが、勤続十年を迎えた大きな要因だと痛感しているところです。しかし、現在も土地改良区のノウハウを語るまでには及ばない、若輩者であることには言うまでもありませんが。

圃場整備事業のことなどなにも判らない状態からの出発だったため、何度も何度も当時の福島県原町農地事務所に通いました。「組合員名簿の作成」「土地台帳の整理」等担当の方に教えを乞いながら、また、つ

数年前、土地改良区は主にハード事業を実施することで「農業生産性を向上し、低コストを図る。」ことを基本にして事業を展開してきたと思われます。近年そのような事業から、施設の維持管理を主とした事業へと移行し、併せて地域への貢献度や目に見える具体的な土地改良区の取り組み等が求められていることを察すると、大きな変革の時期を迎えているのかも知れません。

単なる一土地改良区職員ではできることは限られますが、この度の受賞を契機に、土地改良区を取り巻くそれらの課題について、過去の諸経験の後には多くの方々がいらっしゃったこと、また多くの方々の理解と協力があつたことを再認識し、自分なりの基本理念を持ちながら業務にあたるべきと感じているところです。また土地改良区として地域住民との繋がりを大切にし、微力ながらも、向上心を絶やさず地域に貢献できる職員であります。

最後になりますが、今回の永年勤続の受賞につきましては、職員連絡協議会をはじめ、関係各位のご厚情のお陰であること拝察いたしております。

誠にありがとうございました。

勤務20年間で 学んだこと

布藤堰土地改良区
川井秀子

布藤堰土地改良区事務所が、役場西側に新築完成し、私自身のやる気を強く刺激してくれました。

で、何卒よろしくお願ひいたします。
本当に有難うございました。

同時に、年一回、県内各地の持ち

まわりで開催される土地連の研修会は、毎日の仕事の右も左もわからない私に、沢山のことを教えてくれる絶好の機会でしたし、そのあと懇親会は、先輩の方々の貴重な経験・

体験と、仕事に対する真摯な取り組み、その苦労の中から見い出した問題解決のための素晴らしいアイディアをお聞き出来る最高の場でした。そのおかげで、わが国の農業や自分が取り巻く状況がよくわかるようになり、組合員の皆さんへの仕事上の手助けなども少しずつですが出来るようになつたと思います。

今も、その時先輩の方から教えられた「馴れは不遜のはじまり」という言葉を忘れず、事務所に出入りされるすべての皆さんに接するよう心がけて参りました。

その頃は、日本農業がかかえる多くの問題の転換期であり、今考えれば一番むずかしい時期だったようになります。そこに、私自身の生活上

の多くの問題も重なり、忘れられない時期でしたがまさに時代は大きく

変わろうとしておりました。

磐梯町の役場内に間借りしていた

感謝の気持ち

山都町土地改良区
遠藤敏雄



今年七月に、勤続三十年の表彰をいただきました。改めまして有難う御座いました。これも偏に職場の諸先輩方や同僚の皆様、更に、仕事に纏わる方々の御指導、御協力を戴き、勤務出来たと実感しております。本当に皆様方に深く感謝を致すところであります。

顧みますと、三十年前、山都町土地改良区に勤務した頃は、当時山都町役場の二階の狭い一角に事務所があり七人の職員の方が所狭しと机を

並べておりました。あの頃、圃場整備はじめ、道路、水路等の工事が今では考えられない程、沢山の事業を抱えており、多い時で年間二十五地区の工事箇所がありました。あの当時一人で何地区もの工事現場を担当していた事を思い出します。私は、商業科卒業だった為、農業土木の事は全然無知でありましたので、諸先輩方より手取り足取り御指導を戴き、何とか三十年間勤めてこられました。現在の様にパソコンの無い時代だったので、全て手作業でした。現場測量ともなると、ポール、巻尺、スタッフ、レベル等の機材を担いで、山間地の小さな田畠、原野を夕方遅くまで駆けずり回り、事務所に帰つて来ては、机に向かい手書きで図面作成、電卓片手に数量計算、設計書作成等と連日連夜残業が続いていた事が、今では懐かしい想い出となり、いつも酒の肴になつて酒呑み会が盛り上がります。

現在一人体制で本土地改良区の仕事をしている訳ですが、昔と違つて農業情勢が目まぐるしく変わり、農家ばかりではありませんが生活していく上で、大変な苦労を強いられていました。今後我が土地改良区も、組合員の為にこれから何をし

てあげられるか、何をすべきかとても頭の痛い話です。

私事と話題が変わりますが、仕事を終えて我家に帰ると可愛い二人の孫が、私の遊び相手になつてくれて日々の疲れを癒してくれています。誰でもそうかと思いますが、家族は最高だなといつも思います。私が健康で勤務が出来たと言う事は、周囲の皆様方の御指導、ご協力は言うまでもありませんが、家族の支えがあつたからこそ何とか三十一年間勤めて来られたと思つております。私を支えて戴いた多くの皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。今後共宜しく御願い致します。

「もう、20年?」

須賀川市土地改良区
橋 本 雄 同

このたび、福島県土地改良団体職員連絡協議会より二十年の永年勤続表彰を頂き、誠にありがとうございました。

この賞の該当者になつたと聞いたときは、まあ、一言で言えば、「もう、二十年もたつたの?」が一番最初に頭に浮かんだ言葉です。

今に思えば、民間よりこの世界に入りまして、単語一つ一つが英語のみならず、スワヒリ語を聞いているような感じでした。組合員の皆様や県及び土地連の方々の質問に何を聞かれているのかも、いやいや、質問をされているのか、意見を聞かれているのか区別さえつかない状態でございました。それが今や、福島県の土地改良区の中では、一番のクレーマー(自称)になつてゐるような気がします。関係者の皆様改めましてすみません。しかし、クレーマーになつた経緯は、言われっぱなしでは、気がすまない質でござりますので、一つ文句(もちろん、ちゃんとした意見もあります)を言うのには、それなりの理論武装をしなければなりませんので、無い頭をフル稼働いたしまして、勉強というものをしたつもりでござります。いまは、それプラス経験値が大きな財産となつております。しかし、今時の事業の要項要領というものは、日々変化がございまして、一つ覚えては、また、次

ます。

た今、仕事の芸風も年相応に合わせた形に変えようかなと思う今日この頃です。今風に言えば「チエンジ」とでも言うのでしょうか。と何の脈絡もない文章になつてしましましたが、これからもいろいろとお世話になります。また、良き同僚、土地連の皆様、&たくさんの方の皆さんが、これからもいろいろとお世話になります。最後にこれから意気込みを、私と同じ歳の話題の人(の言葉)を借りまして、最後の言葉といたします。

『Yes we can』をもじり『Yes I can』♪静聴ありがとうございます。



平成20年度視察研修

九月十一日(木)～十二日(金)に、会員二十五名の参加により、新潟県の水土里ネット西蒲原、水土里ネット龜田郷の二土地改良区の視察研修を行つてきました。

水土里ネット西蒲原では、土地改良施設の維持管理と補修について研修させていただきました。

は一九、四九二ヘクタール、組合員数は一四、三八二人。

西蒲原地域は、東北部へ行くにつれて標高0m以下という海より低い

湿地が大半を占めており、昔から多くの水害に見舞われてきたそうで

す。排水機能の強化を図るため、排水方式を抜本的に見直した結果、分

水排水方式による複雑な施設制御を迅速かつ的確に行う水管理システムを構築したということで、このシステムは中央管理所で一元管理を行い、洪水時の的確な取水制限や関連する排水ブロック間の連携操作によ

り、地区内の排水を迅速に排除することが可能となつたそうです。

水土里ネット龜田郷では、21世紀土地改良区創造運動について研修させていただきました。

水土里ネット龜田郷は、受益面積一二、一五四ヘクタール、組合員数四、八三四人で、水土里ネット西蒲原同様面積の約 $\frac{2}{3}$ がマイナス標高地帯であり、かつては「芦沼」と称されるほどの湛水地帯であり、水害の常襲地帯であったそうです。

水土里ネット西蒲原は、土地改良区の区域が新潟県のほぼ中央に位置し、新潟市の一帯、西蒲原及び燕市一円にわたり三つの土地改良区が合併してできたとのことで、受益面積



水土里ネット西蒲原 笹川工務課長



水土里ネット西蒲原 中央管理所

水土里ネット龜田郷は、受益面積一二、一五四ヘクタール、組合員数四、八三四人で、水土里ネット西蒲原同様面積の約 $\frac{2}{3}$ がマイナス標高地帯であり、かつては「芦沼」と称されるほどの湛水地帯であり、水害の常襲地帯であったそうです。

昭和二十三年の国営事業で建設された栗ノ木排水機場の稼働開始が乾田化・都市化の契機となり、「水辺のたからづくり」の理念のもとに



水土里ネット龜田郷 五十嵐理事長



研修の様子

様々な21創造運動の取り組みが行われています。

内部運動として、ASKAプロジェクトを策定し、除草剤抑制策の実施、外部運動として、一斉清掃・水土里の路ウォーキング・住民参加型環境整備の推進等土地改良区の新たな役割を地域の人々と考えながら行つているということでした。

ジエクトを策定し、除草剤抑制策の実施、外部運動として、一斉清掃・水土里の路ウォーキング・住民参加型環境整備の推進等土地改良区の新たな役割を地域の人々と考えながら行つているということでした。

平成20年度視察研修に参加して

会津中央土地改良区 佐藤 康義

職員になり二年目の良い時期に研修へ参加することができました。今回の研修以前にも色々な研修に参加させて頂き、その度に良き先輩・同僚に巡り会え、今回の参加が更に色々な改良区職員との親交に繋がりました。

研修の合間の会話に、それぞれの改良区の違いについての話題がありました。もちろん、職員年数の少ない自分にとって聞き役になることが多く、色々な違いについて知る事ができました。

研修先の西蒲原土地改良区・亀田郷土改良区と比べても等しく、受益面積・職員数が多く・特に排水施設や管理システムが整備され・大規模なりの問題点など多くの違いを感じました。

今まで、どの改良区でも抱えていた問題は同じように思っていましたが、しかし、例えば未収金や賦課金の問題等が同一にあると思つていましたが、その土地の耕作体系や施設体系が異なれば同等には見る事はできないと思きました。



視察研修に参加して

阿賀川土地改良区 斎藤 昌教

さらに、研修二日目の亀田郷の歴史資料館では、稻作の苦しい歴史を知り、先人の方々が土地改良事業を熱心に勤めてきた変遷を知る事で、現在の排水施設やシステムの運用が行われている事が理解できました。

各地域なりの歴史的背景から現在に至っている流れを知る事でその土地々々での改良区の特色が表れるところを感じました。

研修先より戻り、あまり知らないかった会津の歴史について興味をもち、地元をより理解し、また今回知り合った改良区の仲間と更に親睦を深め、今後の維持管理のあり方や土地改良事業の活動に活かして行きました。

研修先の西蒲原土地改良区・亀田郷土改良区と比べても等しく、受益面積・職員数が多く・特に排水施設や管理システムが整備され・大規模なりの問題点など多くの違いを感じました。

今まで、どの改良区でも抱えていた問題は同じように思っていましたが、しかし、例えば未収金や賦課金の問題等が同一にあると思つていましたが、その土地の耕作体系や施設体系が異なれば同等には見る事はできないと思きました。

両土地改良区とも、沼地をほ場にするまでの大変な努力と労力を注いで来たことに感銘を受けました。また、海拔よりも低い土地の苦勞もわかりました。この様な土地柄で耕作する組合員の努力も、計り知れないものがあります。私の考えていた「維持管理」よりもレベルの高い維持管理をしていました。用水はさること

去る九月十一日から十二日の二日間、県土地改良団体職員連絡協議会の主催による視察研修に参加し、研修先は、新潟県西蒲原土地改良区と亀田郷土地改良区での研修でした。研修に先立ち、ホームページで確認したところ、両土地改良区とも、新潟県を誇る土地改良区であることがわかり、興味津々でした。

両土地改良区の視察研修は、「驚き」の一言に尽きました。福島県では考えにくい施設であり、運営状況も異なります。また、あまりの規模の大きさに、本当に驚きました。しかししながら、本当に感銘を受けたのは、維持管理の手法と組合員の認識の凄さでした。

「維持管理」とは、施設の規模は大小様々ですが、一番私が感じたことは、「維持管理」「施設を守る」は、「組合員の財産(施設)を守る」に繋がる様に感じました。つまり、「維持管理」をすることにより、組合員の財産を守る役目があるのではないと感じます。また、維持管理等を通して、組合員に「施設の大切さ」等を啓蒙して行くべきではないかと考えさせられました。

この研修を通して、日々の「維持管理」と「啓蒙活動」がいかに大切

なことなかを再認識させられ、参加出来たことに感謝いたします。参考

先進地視察研修の回想

磐梯西部土地改良区 加藤よね子

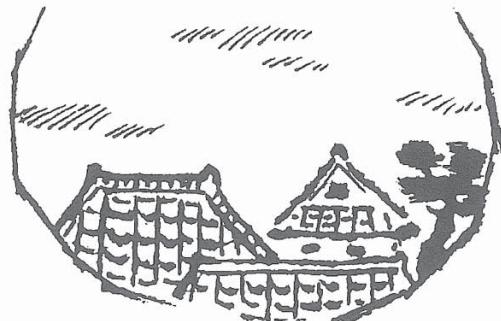
私は平成二十年九月十一日(木)十二日(金)の一泊二日の日程で新潟県西蒲原土地改良区と亀田郷土地改良区への視察研修に参加しました。

この研修は、県外の模範的な農業農村整備事業を研修し、事業推進の参考とする目的に実施されたものであり、大変参考になる土地改良事業の運営を勉強させていただきました。

その回想を思いのまま綴つて見たいと思います。

第一日目の視察は、西蒲原土地改良区でした。この土地改良区は受益面積一九、四九二haで組合員数一四、三八二名の合併した大規模土地改良区で会津管内には見られない規模の大きさに驚きました。

そもそもこの地域は、標高〇メートル地帯で海より低く大半が湿田地帯で早くからこの解消のための事業が講じられ、農地を守るために各地区毎に水利組合が設立されかんがい排水事業が行われてきました。しかし、様々な困難が生じ大規模な排水事業が必要となっていたのです。昭和



二十四年に土地改良法が制定され、これを機会に各地区的水利組合が統合され大規模な灌排事業等が施工されてきたとのことでした。今後の土地改良区のあり方については「統合基本計画」を策定し検討が続けられているとのことで福島県も同じ環境にあることを知りました。

私の西部土地改良区も、一町村一土地改良区という県の「統合整備基本計画」に基づき、合併を模索するため「そうま土地改良区」を研修しました。将来に向けて、昨今の諸情勢の中避けて通れない課題であると考えます。

第二日目の亀田郷土地改良区の研修は、受益面積一、一五四haと組合員数四、八三四名の組織規模で、地区面積の三分の二がマイナス標高地帯で「芦沼」と称される湛水地帶です。このような悪条件を解消するため乾田化を図る基盤整備事業を進め、今では安定した基盤ができあがり土地改良事業の大きな成果を見ることができました。

この地域は、「亀田のあられ」で

有名な亀田製菓工場があるところで全国的にも有名な所です。この土地改良区は、21世紀土地改良区創造運動の取組や活動内容を紹介する機関紙を定期発行され組合員に配布していることが特徴的かと感じました。私の土地改良区でも不十分ながら土地改良区便り「おおたに」を年一回発行しています、亀田郷土地改良区の機関紙を参考として、当土地改良区の機関紙の充実につなげたいと思っています。

最後に、今回が初めての先進地視察研修の参加でしたが、宿泊での懇親会や親睦など参加しなければ会えない改良区との交流は、自らを励まし職員として頑張りたいという思いを強くしました。この度の研修での貴重な体験を土地改良区と地域の中に生かしていきたいと思います。ご一緒にいていただいた皆さんには大変お世話になりました。紙面をもって感謝申し上げます。

視察研修に参加して

会津大川土地改良区 大竹 伸明

県土地改良団体職員連絡協議会主催の平成二十年度視察研修に参加させて頂きました会津大川土地改良区の大竹と申します。

一日目の研修では、新潟市にあります西蒲原土地改良区を視察しました。西蒲原地域は低平な輪中地帯で、昔は三年に一度満足な収穫が得られればよいと言われるほど雨による湛水被害を度々受けるような場所というふうにお伺いしました。現在地区内には大小五〇〇もの揚排水機場があるそうです。水管理は小降雨でも水位の上昇が早くなるため気象情報で警報が発令されるとあらかじめ水位を下げておく操作をする必要があるようです。中央管理所ではモニターで職員が二十四時間監視を行う体制をとられているということでした。やはり大雨や台風の場合に迅速に対応するには気象情報は欠かせないので今まで以上にまめに情報収集していきたいと改めて思う所がありました。

二日目の研修は亀田郷土地改良区を視察しました。ここも輪中地帯で

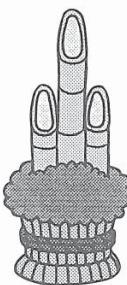
かつては芦沼などと呼ばれる水害の地帯だったようです。ここでは芦沼館という資料館があり、当事田んぼを移動する時に使っていた小舟やモッコと呼ばれるカゴなど展示してあり、昔に触れる貴重な体験でした。21世紀土地改良区創造運動にも取り組まれ、中でも目を引いたのが一斉清掃です。九八五名もの住民が参加して水路や農道のゴミを拾う、自分の所でもそうですが年々水路に捨てるゴミの量が増えているようになります。テレビに自転車、タイヤ等々、ゴミを捨てても誰かが片づけるだろうと考えるマナーやモラルの欠如、その意識の向上を図るには住民を巻き込んだこういった活動が大切だととても感心させられました。

今回の研修で学んだことは今後の仕事に生かしていきたいと思います。参加されました職員の皆様そして事務局の皆様大変お世話になりました。





年男・年女



「勿論元気いっふぱいがんばります」

磐城小川江筋土地改良区 小山田美保子

四月にもなると三男も大学進学の

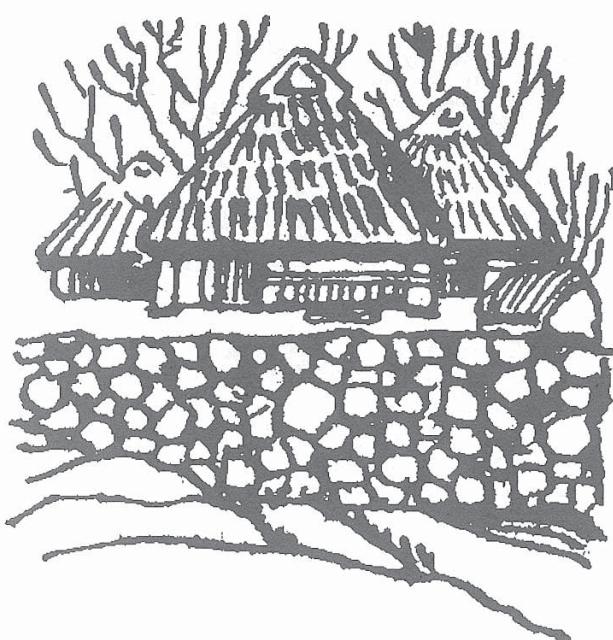
のようです。

ため家を出て、我が家はいよいよ五人五世帯生活に突入いたします。当然生活が逼迫することも想像でき、今までどんなに病弱でデリケートな心を持つていると叫んでも誰ひとり信じてくれなかつたのですが、少しは信じてもらえる体型に変われるかも?と心の奥深くでちょっとびり期待しています。

息子達は病弱で生まれたのに、体型はラッキーにも横ではなく縦に伸び、三人ともスポーツ一直線の高校生活を送りました。私は息子の追っかけ(北は青森から南は島根まで)生活卒業ですので、余った応援エネルギーは今後全て仕事に費やそうと考えていますが、これ以上のパワーアップに事務所のみんなは戦々恐恐

婦ではできない役職を経験させてもらつたり、世間が産地問題で騒いでいる時にも生産者の顔が見える「安心で安全な美味しい米や野菜」を口にする幸運を毎日かみしめています。地域密着の改良区のおかげであり、努力しているご褒美と感謝しています。

最後に「年女」の言葉に?マークでいっぱいになり、「今後は年齢不詳で通した方がいいのかな?」などと小さな抵抗を考えてしまつた小心者の私を今後ともよろしくお願ひします。



いつの間に? 年女

橋葉町土地改良区 西山としみ

新年を迎え、福島県土地改良団体職員連絡協議会々員の皆様のご健勝と、会の益々の発展をご祈念申し上げます。

年男・年女の寄稿依頼を受けまして、今更ながら「〇十〇才という重み」を実感いたします。(年齢は公開しませんので、私をご存知の方は、想像でお願いします)

メタボな私は、毎日、愛犬の散歩をしておりますが、「お前は犬ヅリの選手なのか?」と問い合わせたくなるほど引っ張り、私の先を行きます。(しつけがなってないと言われそうですが、そんな所が可愛いのです)日々、筋肉痛と格闘しております。

昨年は、農業・農村の多面的機能の發揮と、地域住民への用水路の大切さや意識高揚の理解を得ることを目標に掲げ、21世紀創造運動の一環として、橋葉町の小学校五・六年の児童を対象に「ふるさと田んぼと水」絵画作品コンクールを実施。入選作品は、ゴミ不法投棄防止啓発看板に

初心を忘れず

矢吹原土地改良区 岩淵 淳

啓示し、幹線用水路沿いに設置しました。今まで、土地改良区の存在を知らなかつた方達にも、少しは興味をもつていただけたのではないかと 思います。

この間テレビで、クレーム処理を仕事としている方々を放送しておりました。マンションの住人が、ゴミ捨てを他人に注意され、それからは、指定の場所には持つて行かず、自分の玄関ドア横に置いたままで、マンションの廊下には、何日も放置されたゴミが悪臭を放ち、それは酷い状態でした。

毎年、用水路にも様々なゴミが投げ捨てられています。「ふるさと田んぼと水」の絵画作品を活用した看板がいかされ、少しでもゴミの軽減が図られることを期待しております。

(しつけがなってないと言われそうですが、そんな所が可愛いのです)日々、筋肉痛と格闘しております。昨年は、農業・農村の多面的機能の發揮と、地域住民への用水路の大切さや意識高揚の理解を得ることを目標に掲げ、21世紀創造運動の一環として、橋葉町の小学校五・六年の児童を対象に「ふるさと田んぼと水」絵画作品コンクールを実施。入選作品は、ゴミ不法投棄防止啓発看板に

新年あけましておめでとうござい ます。皆様には、お健やかに新年をお迎えしたこととお慶び申し上げま す。昨年は、米国のサブプライム住宅ローン問題に端を発した、金融不安と米国景気の減速懸念が国内でも景気低迷に陥り雇用情勢が厳しくなり、階層間格差が広がつた年でした。今年もまだまだ波乱を含む丑年にな りそうな予感がします。

丑年は、眞面目に一步一歩あゆみを続けて行くことが出来る性格の人が多い?と自負しております。私達の世代がもっと元気に働き、子供達に将来の希望を与えるらるよう頑張りましょう!

当土地改良区も例外なく、厳しい状況にあり、この大波乱を生き抜くためにも柔軟な発想の転換が迫られており、日々、学生時代の頃より勉強する機会が与えられています。私は土地改良区に勤めさせていただき

て、今年で八年目になり中堅に入りますが、初心の気持ちを忘れずに「受益者一人ひとりの声を大切に」をモットーにこれからも積極的に行動していきたいと思つております。

最後に、今年の個人的な目標としては、平々凡々に生きること、仕事的には、何事もスムーズな対応が出来るように頑張ります。

また、健康面でも「腹の上のボニヨ」を解決するべく、食事制限、



「NBAに思つ年男・・・いまだ現役なり」

須賀川市土地改良区 橋本 雄司

皆様、明けましておめでとうござ
います。

え～この原稿依頼がきまして、年
男の執筆というのは、何とも漠然と
いたしまして、マジメな文章は、他
の皆様がお書きになるでしょうか
ら、ここは一つ、私のライフワーク
でもあるバスケットボールに関し
て、語つてみようかなと思います。
年男というものの私めは四十八歳
の歳でありまして、ばかりの中年
です。いや、もはや初老の域に達し
かかっているかもしません。なに
せ、自分には絶対無いと思つてい
た「老眼」もすっかり板に付いてき
たし、健康診断ではほぼフルマーク
の要検査と言つた具合にこの年にな
れば誰もが経験をする分野に、自分
がすっぽりはまつております。しか
しながら、ここで誰もが書き込むだ
ろう「メタボ」、これは冒頭に書い
たように、バスケットボールをライ
フワークとしておりますので、割れ
た腹筋とまでは行かなくとも、週に
二回の練習で、自分の息子よりも若

い者たちと一緒にコート狭しと走り
回っています。この若者に相手にし
て貰えるよう、やはりどこかひとつ
一目を得られなければなりませんの
で、毎日筋トレを欠かさずやってお
ります。たとえば腕立て伏せならば
朝は一〇〇回、夜二〇〇回という具
合に筋トレバカと言われかねないく
らい励んでおります（マツチヨで
す）。この成果もあって、バスケッ
トではチームナンバーワンのパワー
プレイヤーとして君臨しております
す。まあ、自慢ですけど、いろいろ
大会に参加します（監督も兼ねてま
す）と、大体は一番年上のプレイヤー
です。それに、私には七つ年下の弟
がおりますが、弟の方がお兄さんと
みられます。日々若者達と一緒にい
るからかもしれません。また、私の
歳の一つ下（たぶん）にはバスケッ
ト界では引退はしましたが有名な
「マイケルジョーダン」がおります、
あこがれもあり、無謀にも目標で
あります。最近は今更ながら目標で
が増えまして、「コービーブライア

ントとレブロンジェームス」も目標
に加えました。まあ、身長が一八一
cmの私がこの目標に近づくのは（そ
んな次元ではない）、大かきで太平
洋を泳ぎ切るよりも不可能なのは分
かっていますが、バスケットボール
を続ける励みにはしております。そ
してまた、次の年男の執筆依頼が来
たときにも「我が輩は、現役バスケッ
トプレイヤーである」と書くつもり
です（できれば）。

以上、ありがとうございました、
今年もよろしくお願ひいたします。



学校の総合学習で小川江筋の歴史と役割を勉強し、私の帰りをまちかまするよう、「今日お母さんの会社の勉強をしたよ」と、嬉しそうに話す娘の笑顔に励まされたのを覚えていります。

自宅の後ろに小川江筋が流れ、目の前には田園風景が広がるのどかな環境で子育てをしてきましたが、非農家であつたため農業に関する知識も無く小川江筋の歴史がこんなに古い事も解らず過ごして来ました。多くの方々の苦労と努力があつて小川江筋に水が流れ、田を潤しその恵みによつて私達の生活が成り立つっていることを、これからは子供達へ伝えたいと思います。

四月には正式に職員となりました。がまだ毎日奮闘しております。迷惑ばかりかけてしまう私に誠心誠意指導してくださる二人の主任のもと、職員となれたことを今あらためえようとしております。

土地改良区の仕事がどのような役割を果たすのかもよく解らず事務の引継ぎはしたものの、事務所内で使用される専門用語は、私には初めて耳にする言葉ばかりでした。

正直私に務まるのか不安な気持ちでいっぱいのスタートでしたが、時を同じくして小学四年生になる娘が



学校の総合学習で小川江筋の歴史と役割を勉強し、私の帰りをまちかまするよう、「今日お母さんの会社の勉強をしたよ」と、嬉しそうに話す娘の笑顔に励まされたのを覚えていります。

自宅の後ろに小川江筋が流れ、目の前には田園風景が広がるのどかな環境で子育てをしてきましたが、非農家であつたため農業に関する知識も無く小川江筋の歴史がこんなに古い事も解らず過ごして来ました。多くの方々の苦労と努力があつて小川江筋に水が流れ、田を潤しその恵みによつて私達の生活が成り立つっていることを、これからは子供達へ伝えたいと思います。

四月には正式に職員となりました。がまだ毎日奮闘しております。迷惑ばかりかけてしまう私に誠心誠意指導してくださる二人の主任のもと、職員となれたことを今あらためえようとしております。

土地改良区の仕事がどのような役割を果たすのかもよく解らず事務の引継ぎはしたものの、事務所内で使用される専門用語は、私には初めて耳にする言葉ばかりでした。

正直私に務まるのか不安な気持ちでいっぱいのスタートでしたが、時を同じくして小学四年生になる娘が

そしてその技術主任と綿密な連携をはかりながら事務処理を的確に遂行されている事務主任は、女性としても母としても私の人生のお手本とする素晴らしい方です。

初めて賦課金の集金に同行した際

には、組合員の方とのコミュニケーションは勿論のこと、土地改良区としての役割などを丁寧に説明され常に組合員の方々への思いやりの姿勢に、傾聴と相互理解の大切さを勉強させていただきました。

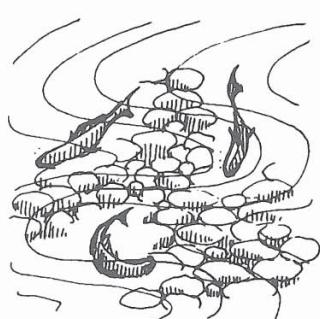
まだまだ事務主任のような対応はできませんが、思いやりの心だけは忘れずにこれまで指導していただきたいことを少しでも実践できるよう努力してまいりたいと思います。

会員の皆様はじめまして、今年度より会津北部土地改良区で職員として業務に携わらせて頂いております。このたび新会員ということで寄稿の依頼があり、書かせて頂くことになりましたのでよろしくお願い致します。

土地改良区に入つて早いもので九ヵ月が過ぎ、改良区ではどのような業務を行つているのか少しづつではありますが理解してまいりました。また研修に行かせて頂く機会もあって、他の改良区の維持管理で労働されていること、独自に工夫されていることなど参考となることが多い、勉強させて頂いております。

改良区の業務に携わつてみて感じたことは、改良区の業務が自分たちの生活にどれだけ身近に係わりを持ち、そして多くの役割を果たしているかということです。

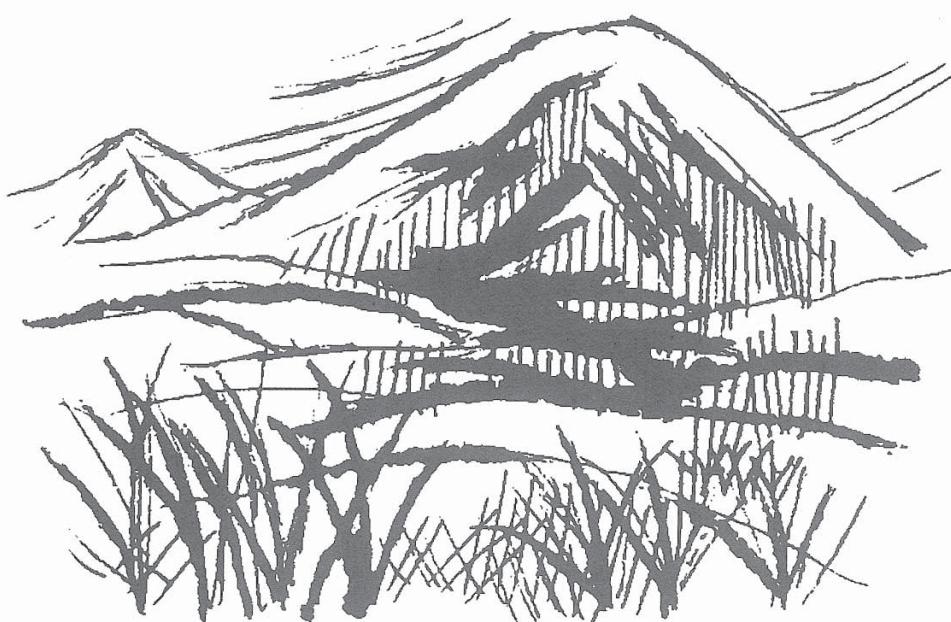
以前の私は、水路に流れている水はどこから来ているか分からず、流れているのが当然のように思つてい



ました。しかしそれは大きな間違いで、改良区で維持管理している施設によつて取水され、それをロスなく農地に供給するためには多くの人の協力が必要だということが分かりました。また農地ばかりでなく集落内の水路にも供給され、防火用水、消雪用水など様々な役割を担つているということも分かりました。ほかにも大雨や地震といった自然災害への対応など地域にとって重要な役割も担つていて責任の大きさを痛感しております。

職員になつて組合員の方と話す機会も多くなりました。私が先輩方からよく言われることは、組合員の方から土地改良区への要望等があつたときには、現地に直接行つて話を聞くということです。そうすることにより組合員の方とスムーズに話し合いができる、何より顔を覚えて頂くことができるのでとても大切なことだと思いました。

今後の抱負としては、必要となる専門知識をもつと勉強し、組合員の皆様の役にたてるよう努力していくとともに、地域の農業の発展のために貢献できればと思つております。



50年の実績と信頼

水土里ネット福島はみなさんのパートナーです!

農業農村整備事業の調査・設計・施工管理

農業農村整備事業等は国及び県の補助事業として実施されるため、その調査・設計・施工には、関係機関との協議・調整の下、技術基準の適合性、経済性の説明が求められます。

本会は、この支援に長く携わっており、高い技術力と経験を備えております。今後とも、より一層の会員サービスに努めてまいります。

ほ場整備事業の支援

ほ場整備事業においては、計画から実施設計、換地処分までを一体的な業務と捉え、技術支援を行ってまいります。

計画策定においては、換地計画を見捉え、権利者や関係機関との連携により、地域実情にあった計画樹立に努めております。

農業集落排水事業の支援

農業集落排水事業においては、調査・計画・実施・施工管理・維持管理のすべての業務に一貫して携わり、経験豊富な高い技術力を備えた技術者が多数おります。

関係機関との連携の下、適切な処理方式の選定など地域の実情に即した提案に努めてまいります。

農地・水・環境保全向上対策や地理情報システムへの取り組み

農地・水・環境保全向上対策や地理情報システム(GIS)の構築など新たな事業に、これまでの技術や経験の蓄積を活かして積極的に取り組み、関係機関との連携の下、地域農業の発展や農業農村の振興に貢献するとともに、農業用排水施設の維持管理(ストックマネジメント)支援にも努めております。



水土里ネット福島の登録内容

- ISO9001:2000/JIS Q 9001:2000(H19.2.23付、登録証番号JQA-QMA13143)
- 建設コンサルタント(H12.12.3付、建12第7079号、農業土木部門)
- 一級建築士事務所(H19.4.9付、第11(904)1975号)
- 計量証明事業登録(H7.7.3付、第環34号)
- 測量業者登録(H17.6.2付、登録第(2)-26856号)
- 浄化槽保守点検業者登録(H15.5.14付、福島県知事登録第1353号)
- 産業廃棄物処分業(H17.11.18付、許可番号0720122234号)
- 農業農村整備事業発注者支援機関認定(H18.10.16付、第0606号)

(平成21年1月5日現在)



みどり
水土里ネット福島

(福島県土地改良事業団体連合会)

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地

TEL:024-535-0371 FAX:024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp/> E-mail:info@midorinet-fukushima.jp